



決め手は、青森県産。



特産果樹生産情報第3号
(5月27日～6月23日)

令和5年5月26日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

生育に応じた適期管理を！
おうとうは裂果防止対策を万全に！！
病虫害防除対策の徹底を!!!

I 要約

- 各樹種において、生育が平年より10日程度早まっている。
- ぶどうは、摘心、花穂整形、無核処理等の管理作業を適期に行う。
- おうとうは、裂果防止のため雨よけ被覆を行い、適期収穫に努める。
- ももは、硬核期が始まる前に仕上げ摘果を終える。前年にせん孔細菌病の発生が多かった園地では、薬剤散布と耕種的防除を組み合わせた総合的防除を徹底する。
- なしは、すみやかに仕上げ摘果を終える。西洋なしでは、6～7月の幼果期は輪紋病に最も感染しやすいので、10日間隔の薬剤散布を徹底する。

報道機関用提供資料	
担当課	農林水産部りんご果樹課
担当者	生産振興グループ GM 小笠原 宜弘
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5092
報道監	農林水産部 次長（農商工連携推進監）成田 澄人 内線 4966

II 特産果樹生産情報

1 生育概況

無加温ハウスぶどうの開花日は、五戸（りんご研究所県南果樹部）で平年より5日早かった。露地栽培ぶどうの展葉日は、五戸で平年より10～13日早く、黒石（りんご研究所）で6～9日早かった。

おうとうの落花日は、五戸で平年より10～13日早く、黒石で12日早かった。

ももの落花日は、五戸で平年より11日早く、黒石で10日早かった。

西洋なしの落花日は、五戸で平年より13～14日早く、日本なしの落花日は、五戸で平年より12日早かった。

○ぶどうの生育ステージ

（5月22日現在）

品種	場所	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日	ハウス被覆日
スチューベン	五戸	本年	4.22	5.3				/
		平年	4.30	5.13	6.22	6.24	7.2	
		前年	4.21	5.4	6.15	6.18	6.25	
	黒石	本年	4.20	5.3				
		平年	4.29	5.9	6.17	6.20	6.29	
		前年	4.25	5.6	6.12	6.15	6.26	
キャンベル・アーリー （露地）	五戸	本年	4.16	4.29				
		平年	4.28	5.12	6.19	6.21	6.26	
		前年	4.19	5.4	6.11	6.14	6.18	
キャンベル・アーリー （無加温ハウス）	五戸	本年	4.8	4.19	5.22			3.23
		平年	4.14	4.28	5.27	5.30	6.4	3.23
		前年	4.10	4.25	5.23	5.26	5.31	3.23
	三戸	本年	4.3	4.12	-	-	-	3.16
		平年	4.5	4.15	5.14	5.17	5.21	3.17
		前年	4.5	4.18	5.12	5.14	5.19	3.23
シャインマスカット （簡易雨よけ）	五戸	本年	4.23	5.3				/
		平年	5.1	5.13	6.27	6.30	7.3	
		前年	4.24	5.7	6.20	6.23	6.25	
シャインマスカット （露地）	黒石	本年	4.21	5.3				/
		平年	5.2	5.12	6.24	6.27	7.1	
		前年	4.26	5.8	6.22	6.26	6.30	

注1) 場所の五戸はりんご研究所県南果樹部、黒石はりんご研究所、三戸は三戸町梅内（県生育観測ほ）、以下同様

2) 平年値は2003～2022年（20年間）の平均。ただし、キャンベル・アーリー（無加温ハウス）の五戸は2005～2022年（18年間）の平均、シャインマスカット（簡易雨よけ）の発芽日は2013～2022年（10年間）、展葉日は2012～2022年（11年間）、開花日、満開日、落花日は2011～2022年（12年間）、シャインマスカット（露地）は2009～2022年（14年間）の平均

○おうとう、もも及びうめの生育ステージ

(5月5日現在)

樹種	品種	場所	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
おうとう	佐藤錦	五戸	本年	4. 7	4.18	4.17	4.21	5. 5
			平年	4.23	5. 4	5. 2	5. 4	5.15
			前年	4.14	4.27	4.23	4.24	5. 6
		黒石	本年	4. 5	4.27	4.20	4.24	5. 3
			平年	4.22	5. 5	5. 1	5. 4	5.15
			前年	4.14	5. 3	4.23	4.25	5. 8
	ジュノハート	五戸	本年	4. 7	4.21	4.19	4.21	5. 2
			平年	4.23	5. 3	5. 2	5. 4	5.15
			前年	4.14	4.28	4.24	4.25	5. 7
もも	あかつき	五戸	本年	4. 4	4.25	4.18	4.20	5. 2
			平年	4.16	5. 6	5. 2	5. 5	5.13
			前年	4.11	4.27	4.23	4.25	5. 3
	川中島白桃	五戸	本年	4. 4	4.27	4.21	4.25	5. 5
			平年	4.16	5. 7	5. 4	5. 7	5.16
			前年	4.12	4.27	4.25	4.26	5. 4
		黒石	本年	4. 3	4.27	4.21	4.24	5. 5
			平年	4.20	5.10	5. 4	5. 7	5.15
			前年	4.13	5. 6	4.26	4.28	5.10
うめ	豊後	五戸	本年	3.11	4.11	4. 4	4. 6	4.14
			平年	3.19	4.27	4.21	4.24	4.30
			前年	3.17	4.21	4.12	4.13	4.21

注) 平年値は2003～2022年(20年間)の平均。ただし、ジュノハートの発芽日、開花日、満開日、落花日は2009～2022年(14年間)、展葉日は2012～2022年(11年間)の平均、川中島白桃の五戸は2004～2022年(19年間)の平均

○なしの生育ステージ

(5月5日現在)

樹種	品種	場所	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
西洋なし	ゼネラル・レクラーク	五戸	本年	3.24	4.12	4.21	4.22	4.29
			平年	4.11	4.29	5. 5	5. 6	5.12
			前年	4.10	4.23	4.25	4.26	5. 5
	ラ・フランス	五戸	本年	3.23	4.11	4.21	4.22	4.28
			平年	4.10	4.29	5. 5	5. 6	5.12
			前年	4. 9	4.23	4.25	4.26	5. 3
日本なし	幸水	五戸	本年	3.24	4.19	4.20	4.21	5. 4
			平年	4.12	5. 2	5. 5	5. 7	5.16
			前年	4.10	4.25	4.26	4.27	5. 8

注) 平年値は2003～2022年(20年間)の平均

2 作業の重点

(1) ぶどう（露地栽培）

ア 新梢の誘引、結束

薬剤や日光の通りを良くするため、新梢は随時角度や間隔を調整しながら架線に誘引し、結束する。

イ 摘心（1回目）

開花7日前頃（新梢の展葉10枚時頃）から行う。下表に従い、品種や樹勢に応じた摘心を行う。

品種別摘心方法（1回目の摘心）

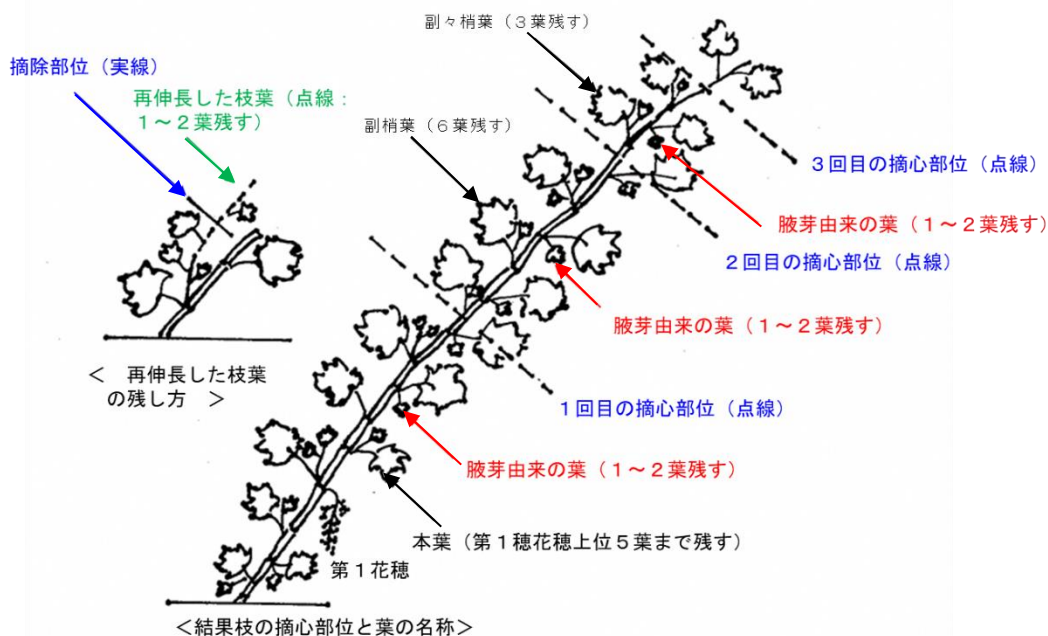
品種	樹勢	摘心部位	副梢の取り扱い
スチューベン	強中	第1花穂上位5枚	①すべての副梢を欠いた後に発生した先端の副梢を残す ②上位1本を残し下位は摘除する 注)を参考に①か②を選択する
	弱	第1花穂上位5枚	上位2本の副梢を残し下位は摘除する
キャンベル・アーリー		第1花穂上位3～4枚	上位2本の副梢を残す
シャインマスカット		第1花穂上位5枚	上位1本の副梢を残す

注1) 副梢の取り扱い（スチューベン）

①では、着粒密度は高くなるが、果粒が小さくなり、成熟期が遅れる。

②では、品質、着色は良くなるが、着粒密度がやや劣る。

2) シャインマスカットの腋芽由来の枝葉は、摘心時から摘心3日後頃に葉を1～2枚残し摘除する。



結果枝の摘心と葉の残し方（シャインマスカット）

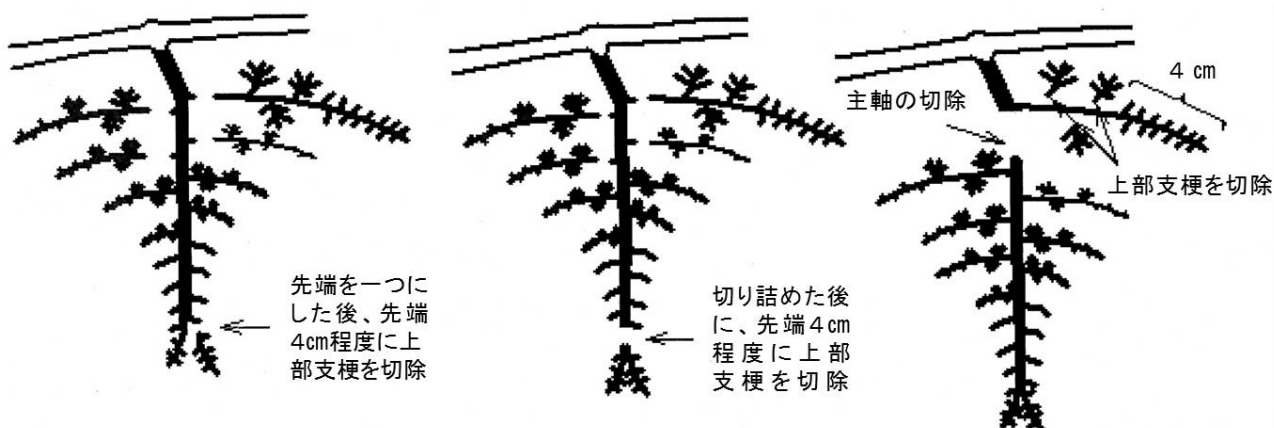
ウ 花穂の整形

開花5日前頃から1～2花咲き始める時（花穂がほぼ伸びきった頃）から始める。キャンベル・アーリーは、岐肩、岐肩下の長い支梗や軸の間隔が広い支梗を除去し、花穂の先端を切り詰める。

スチューベンは、岐肩のみを切除する。

シャインマスカットは、正常な花穂では花穂の先端4cmを残す。先端が二股などの異常花穂を利用しなければならない場合は、①先端を一つにする、②分岐部分まで切り詰める、③岐肩下の支梗に切り替えるのいずれかの方法を選んで実施する。（下図参照）

なお、花穂整形を行う際、花穂整形器（商品名「ぶどう花穂整形器」、「ラクカット」）を用いることで作業時間を短縮できる。（下の写真参照）

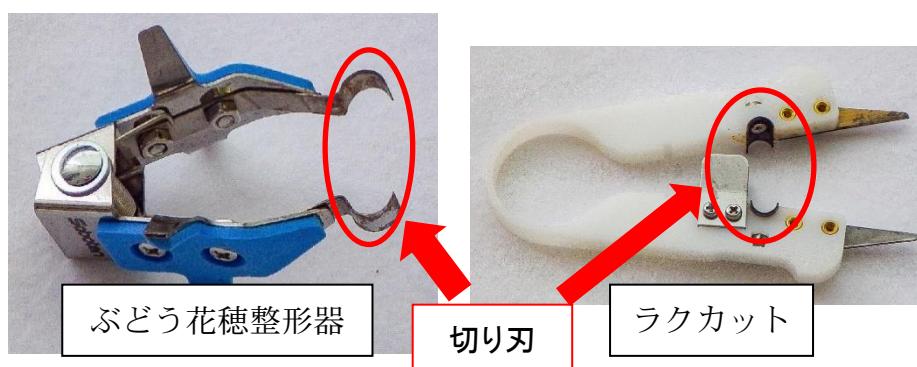


①先端を一つにする

②分岐部分まで切り詰める

③大きな健全な岐肩に切り替える

シャインマスカットの異常花穂への対応の仕方



花穂整形器を用いたシャインマスカットの花穂整形方法

切り刃で穂軸を挟み、本体を上下方向または下方向にスライドさせて不要な支梗を切除する。

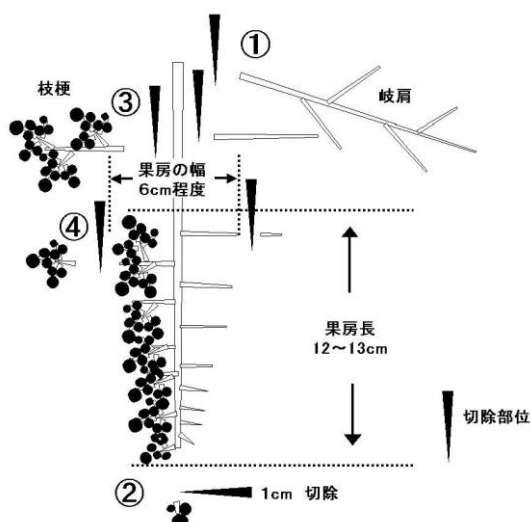
花穂整形作業に要する時間は、ハサミ利用に比べて「ぶどう花穂整形器」利用では40～45%程度、「ラクカット」利用では35～40%程度を短縮できる。

エ 果房の整形（スチューベン）

商品性が高い300g程度の円筒形密着果房を生産するため、下表に従い整形する。写真のように下から1cmの位置に線を引いた縦13.5cm、横6cmの型紙を果房にあてがうと正確に整形できる。

円筒形密着果房を生産するための果房整形法（スチューベン）

処理時期	処理方法
開花前（6月中旬頃）	・ 岐肩を切除する（図の①）
果粒が小豆粒大頃 （7月上旬頃）	・ 果房の先端を1cm切除する（図の②） ・ 果房長が12～13cmになるように果房上部の支梗を切除する（図の③） ・ 残した果房は幅が6cm程度になるように切り詰める（図の④）
果粒が小豆粒大以降	・ 無核小粒果を摘粒する



スチューベンの果房整形法



スチューベンの整形用型紙の使用法

オ 追肥

開花直前頃に標準施肥量の10～20%程度を追肥する。施肥量は、成木（5年生以上）10a当たり窒素1.5～3kg、リン酸1～2kg、カリ1～2kgを目安とする。

カ 若齡樹に対する果粒肥大促進（シャインマスカット）

若齡樹（概ね3～6年生）は果粒の肥大が劣る傾向にある。展葉6～8枚時にフルメット液剤2ppm溶液を花穂に十分かかるように散布することにより、果房の品質向上を図ることができる。

キ 無核処理（シャインマスカット）

以下の手順で行う。

① ストレプトマイシン処理

満開予定日の14日前～開花始期にストレプトマイシン200ppm溶液を花房浸漬または花房散布する。

② ジベレリン処理

【ジベレリン2回処理の場合】

1回目は、満開時～満開3日後にフルメット5ppmを加用したジベレリン25ppm溶液に花房浸漬する。花穂の先端まで開花したことを確認してから行う。

2回目は、満開10～15日後にジベレリン25ppm溶液に果房浸漬する。

【ジベレリン1回処理の場合】

満開3～5日後（落花期）にフルメット10ppmを加用したジベレリン25ppm溶液に花房浸漬する。



シャインマスカットの満開時の花穂

ク 予備摘粒（シャインマスカット）

予備摘粒は、ジベレリン2回処理の場合に限り行う。1回目の処理日から5～7日後頃に果房の軸長を6cmに調整する。その際、果房の内側（軸の方向）に向いた果粒を優先して摘粒し、小粒や障害果も摘粒する。

果粒軟化期前までに仕上げ摘粒を行い、着粒数は40～50粒とする。

ケ 病害虫防除

灰色かび病やべと病等の重要な防除時期なので、各病害虫に対する有効薬剤を選択し、適期に適量の薬剤散布を行う。

（ア）薬剤散布

キャンベル・アーリー基準

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
開花10日前頃	アリエッティC水和剤 800倍 又はオツサト水和剤80 800倍 又はインダーフロアブル 8,000倍 又はオンリーワンフロアブル 2,000倍	ベストガード水溶剤 1,000倍 又はパダンSG水溶剤 1,500倍 又はアグロリン水和剤 2,000倍 又はアディオンフロアブル 1,500倍	2500
開花直前	アリエッティC水和剤 800倍 又はオツサト水和剤80 800倍 又はゲッター水和剤 1,500倍 又はフルツェバ 1,500倍	ベストガード水溶剤 1,000倍 又はパダンSG水溶剤 1,500倍 又はジノテフラン剤 2,000倍	2500
落花直後	ロブラル水和剤 1,500倍 又はホルバリン水和剤 1,000倍 又はスイッチ顆粒水和剤 2,000倍 又はフルビカフロアブル 2,000倍	アグロリン水和剤 2,000倍 又はアディオンフロアブル 1,500倍 又はジノテフラン剤 2,000倍	2500

注1) ジノテフラン剤：スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤

2) アリエッティC水和剤は最後に調合する（物理性の悪化）。

3) DMI剤（インダーフロアブル、オンリーワンフロアブル）とフルーツセイバーは、薬剤耐性発達の懸念があるので、それぞれ年1回の使用にとどめる。

スチューベン基準

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
開花10日前頃	アリエッティC水和剤 800倍	ベストガード水溶剤 1,000倍	2500
	又はキノンドー水和剤40 600倍	又はパタンSG水溶剤 1,500倍	
	又はインダーフロアブル 8,000倍	又はアグロリン水和剤 2,000倍	
	又はオンリーワンフロアブル 2,000倍	又はアディオンフロアブル 1,500倍	
開花直前	アリエッティC水和剤 800倍	ベストガード水溶剤 1,000倍	2500
	又はゲッター水和剤 1,500倍	又はパタンSG水溶剤 1,500倍	
		又はジノテフラン剤 2,000倍	
落花直後	ロブラル水和剤 1,500倍	アグロリン水和剤 2,000倍	2500
	又はポリバリン水和剤 1,000倍	又はアディオンフロアブル 1,500倍	
	又はスイッチ顆粒水和剤 2,000倍	又はジノテフラン剤 2,000倍	
	又はフルビカフロアブル 2,000倍		

注1) ジノテフラン剤：スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤

2) アリエッティC水和剤は最後に調合する（物理性の悪化）。

3) DMI剤（インダーフロアブル、オンリーワンフロアブル）は、薬剤耐性発達の懸念があるので、年1回の使用にとどめる。

(イ) 灰色かび病対策（キャンベル・アーリー）

「開花10日前頃」の薬剤散布後に低温が続いて、次回の「開花直前」までの散布間隔が開きすぎる場合、「開花見込みの1週間前頃」にピクシオDF2,000倍を特別散布する。例年発生が多い園地では、「開花直前」にゲッター水和剤又はフルーツセイバーを選択する。

(ウ) ベと病対策（スチューベン）

軟弱な生育を避けるために、生育が旺盛な園地では追肥を控えるなど、窒素肥料を施用し過ぎない。発病葉や発病果房は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。排水不良園では、排水溝を掘って、雨水が長く溜まらないようにする。

発生が多い園地では、「開花10日前頃」にアリエッティC水和剤又はキノンドー水和剤40、「開花直前」にアリエッティC水和剤を選択し、「落花直後」にランマンフロアブル2,000倍又はライメイフロアブル4,000倍も使用する。ただし、ランマンフロアブルはポリバリン水和剤と組み合わせない（物理性の悪化）。ランマンフロアブルとライメイフロアブルは同じ系統の薬剤であり、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年1回の使用にとどめる。

(2) ぶどう（無加温ハウス）

ア ハウス内の温度管理

外気温が30℃を超える日は光合成能力が著しく低下し、果実の日焼けなど高温障害の発生が懸念されるので、ハウスのサイド、妻及び屋根の谷間を巻き上げるなどして換気する。

イ 摘心（2回目）

副梢の展葉枚数が8～9枚になった頃に行う。1回目の摘心後に伸びた副梢を5～6枚残して摘心する。摘心部位の先端の副々梢だけを残して、他はすべて摘除する。これ以降も副々梢が伸びる場合は3～5葉で摘心を行う。

ウ 摘房

キャンベル・アーリーは花振るいが比較的多いので、果房の形が決まってから行う。キャンベル・アーリーなどの中粒種の着房数の目安は次のとおりである。

- 生育が極端に劣る結果枝 : 原則としてすべて摘房
- 生育がやや劣る結果枝 : 1果房
- 中庸または旺盛な生育の結果枝 : 2果房

シャインマスカットなどの大粒種は、原則として1結果枝1果房とする。

エ 摘粒

果粒の大きさが小豆粒大の頃（満開後15～25日）から始め、8月上旬頃（果粒軟化期前）には終える。

シャインマスカットの予備摘粒は、露地栽培に準ずる。

品種別の摘粒の目安は下表のとおりである。小粒果やさび果などの障害果のほか、果粒が外向きに並ぶように内側の果粒を除去し、目安の果粒数にする。

品種別目標果房重と果粒数（摘粒の目安）

品種	果房重 (g)	1粒重 (g)	果粒数 (粒)
キャンベル・アーリー	350	6.0	55～65程度
シャインマスカット	450～550	12～13	40程度

オ 病虫害防除

露地栽培に準ずる。

(3) おうとう

ア 裂果防止対策

雨よけ施設を設置し、果実に雨を当てないことが最も効果的である。

雨よけフィルムによる被覆は果実の地色が抜けて、わずかに着色した果実が見え始めた頃に行く。

高温障害を防止するため、樹冠上部と雨よけ施設の被覆資材との間には、1.5～2.0m程度の空間を作るようにする。また、裂果防止に支障の無い範囲で最大限の換気に努める。

施設内でも裂果が発生することがあるので、以下の総合的な対策を講じる。

- 送風機などの設置により空気の流れを起こす
- 目合い1mmの防風ネットの設置により湿度の上昇を遅らせる
- 土壌水分を乾燥気味に保つため、pF2.3程度まではかん水を控える

イ 葉摘みによる着色の向上

収穫予定の7～10日前頃の果実の着色がある程度進んでから、果実に直接覆いかぶさっている葉を摘み取る。摘み取る葉の量が多いと果実品質が低下し、翌年の花芽の充実不良や樹勢の低下を招く恐れがあるので最小限にとどめる。



葉摘み前

葉摘み後

葉摘みの方法

ウ 収穫

収穫時期の判定は、満開日からの日数（右表参照）を目安にしながら、果皮の着色程度、食味、果実の用途などから総合的に行う。

ジュノハートは、「満開55日後頃（五戸で6月15日頃）」を収穫始めの目安とする。専用カラーチャートを利用し、着色指数5に達した果実からすぐりもぎする。「満開60日後頃（五戸で6月20日頃）」以降は、着色指数4以上の果実を収穫する。

品種	満開日から収穫始めまでの日数
紅さやか	40～50日
佐藤錦	50～55日
ジュノハート	55～60日
北光	50～60日
紅秀峰	60～70日
サミット	60～65日
南陽	60～65日

収穫はなるべく朝や夕方の涼しい時間帯に行く。日中の高温時に収穫する時は、収穫後直ちに冷涼な日陰に置き、果実温度を下げ、鮮度を保つ。

やむを得ず降雨中に収穫した場合は、扇風機などを利用して果実を乾燥させてから出荷する。

エ 病虫害防除

灰星病や炭疽病、オウトウショウジョウバエ等の重要な防除時期なので、各病虫害に対する有効薬剤を選択し、遅れないよう適期に薬剤散布を行う。

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
満開35日後頃	アミスター10フロアブル 1,000倍 又はファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 又はナリアWDG 2,000倍 又はアンビルフロアブル 1,000倍 又はオンリーワンフロアブル 2,000倍	テルスターフロアブル 4,000倍 又はエクセルSE 2,500倍 又はテッパン液剤 2,000倍	500ℓ
収穫前 (佐藤錦)	アミスター10フロアブル 1,000倍 又はナリアWDG 2,000倍 又はインターフロアブル 5,000倍	スカウトフロアブル 3,000倍 又はエクセルSE 2,500倍	500ℓ
収穫前 (晩生種)	アミスター10フロアブル 1,000倍 又はナリアWDG 2,000倍	スカウトフロアブル 3,000倍 又はテルスターフロアブル 4,000倍 又はエクセルSE 2,500倍 又はテッパン液剤 2,000倍 又はスピノシン剤 10,000倍	500ℓ

注1) スピノシン剤：ディアナWDG、デリゲートWDG

- 2) 「満開35日後頃」に紅さやかななどの早生種に散布する場合、「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。
- 3) ストロビルリン単剤のアミスター10フロアブルとファンタジスタ顆粒水和剤及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ストロビルリン単剤は連続使用しない。
- 4) DMI剤（アンビルフロアブル、オンリーワンフロアブル、インターフロアブル、ルビゲン水和剤）は薬剤耐性発達の懸念があるので連続使用しない。

(イ) 灰星病対策

「満開35日後頃」以降、多発が懸念される場合は、佐藤錦の「収穫見込みの7日前頃」にルビゲン水和剤3,000倍、インターフロアブル5,000倍、パスワード顆粒水和剤1,500倍のいずれかを特別散布する。

(ウ) オウトウショウジョウバエ対策

被害果や取り残し果実は発生源となり、園内密度が高まるので、速やかに処分する。

(エ) カメムシ類対策

断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊を見つけ次第、つぶして処分する。ふ化幼虫がみられたら、分散する前に捕殺する。

「満開35日後頃」に発生がみられた場合、テルスターフロアブルを選択する。

「収穫前（佐藤錦）」に発生がみられた場合、オウトウショウジョウバエ対策でスカウトフロアブルを使用すると、防除剤は必要ない。

「収穫前（晩生種）」に発生がみられた場合、テルスターフロアブルを選択する。ただし、この時期にオウトウショウジョウバエ対策でスカウトフロアブルを使用すると、防除剤は必要ない。

(4) も も

ア 摘果

硬核期（満開44～75日後）が始まる前に仕上げ摘果を終える。

最終的な着果程度は、長果枝（30cm以上）で長さによって1～3果、中果枝（10～30cm）で1本に1果、短果枝（10cm以下）で4～5本に1果とする。着果量が少ないと品種によっては核割れを生じ、品質、収量が低下するので注意する。

イ 新梢整理

樹冠内部を明るく保つため、太枝の背面や先端部から伸びた徒長枝は除去する。日焼け対策として残す場合は、5～10cm程度の長さで、葉芽を残して切り取る。

ウ 袋かけ

病害虫対策を主とする場合は、薬剤散布後に袋かけをし、6月末までに終える。ただし、袋かけ作業が6月20日以降になるときは、モモシンクイガ対策として防除剤を散布してから袋かけをする。

エ 病害虫防除

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
落花20日後頃	マイコシールド 2,000倍	ダイゼン水和剤34 1,000倍	400ℓ
	又はスターナ水和剤 1,000倍		
落花30日後頃	又は クプロシールド 1,000倍 +クレフノン 100倍	サイノックス水和剤 1,000倍 又はスチオン水和剤40 800倍	400ℓ
	ダコニール1000 1,000倍		
	又はチウラム剤 500倍		
	又は水和硫黄剤 500倍		
落花40日後頃	ダコニール1000 1,000倍	ダントツ水溶剤 2,000倍	400ℓ

	又はチウラム剤	500倍			
7月上旬	デランフロアブル	600倍	サイノックス水和剤	1,000倍	4000
	又はダコニール1000	1,000倍	又はハイロイトEW	2,000倍	
	又はバルコートフロアブル	2,000倍	又はイカズチWDG	1,500倍	

注1) チウラム剤 (チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル)

2) 水和硫黄剤 (サルファーゾル、イオウフロアブル)

3) マイコシールドとスターナ水和剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、それぞれの薬剤を連続使用しない。

4) クプロシールドは葉に赤色斑点やせん孔、黄変落葉を生じるおそれがあるので、葉害軽減のためクレフノン100倍を必ず加用する。散布後に大雨があるとクレフノンが流されて葉害軽減効果が低下するので注意する。

5) クプロシールドとサルファーゾルは混用しない。

(イ) 追加散布「落花50日後頃」

生育の早い園地では、適正な間隔で薬剤散布を行うために、例年の「落花40日後頃」と「7月上旬」の間に「落花50日後頃」の散布を追加する。なお、薬剤の年間使用回数及び収穫前日数には十分注意する。

散布時期	殺菌剤		殺虫剤		散布量 /10a
落花50日後頃 (追加散布)	マイコシールド	2,000倍	サイノックス水和剤	1,000倍	4000
	+				
	ダコニール1000	1,000倍			

注) 「落花40日後頃」までのスターナ水和剤の使用回数が2回以内の場合、「落花50日後頃」はマイコシールドに代えてスターナ水和剤を使用できる。スターナ水和剤の年間使用回数は「3回以内」である。

(ウ) せん孔細菌病対策

薬剤散布と耕種的防除を組み合わせた総合的防除を徹底する。なお、風を強く受ける地帯で多発するので、防風対策は必ず行う。

一次伝染源である春型枝病斑の切除を徹底する。6～8月に新梢に発生する夏型枝病斑は重要な伝染源になるので、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

前年に果実被害が多かった園地では、果実感染を防ぐため有袋栽培とする。

「落花30日後頃」～「落花40日後頃」にマイコシールド又はスターナ水和剤も1～2回使用する。生育の早い園地では、「落花50日後頃」に有効薬剤を散布する。

発生が多い園地では、「7月上旬」にデランフロアブルを選択する。



せん孔細菌病夏型枝病斑

(5) な し

ア 摘 果

仕上げ摘果は、すみやかに終える。適正な着果程度は、ゼネラル・レクラークで5.5～7頂芽に1果、ラ・フランスで4頂芽に1果、幸水で3～4頂芽に1果とする。

イ 熟期促進（日本なし）

日本なしでは、ジベレリンペーストの利用により熟期を促進できる。摘果終了後、満開30～40日後に、果梗に1果当たり20～30mgを専用のアタッチメントを用いて塗布する。その際、果面にジベレリンペーストが付着すると、さびなどの原因となるので注意する。

ウ 徒長枝の整理と誘引

将来、結実枝として使用するもの以外は、枝の基部から除去する。

枝が柔らかくなる6月頃に主枝候補枝と更新枝を30度前後に誘引する。若木は枝が立ちやすいので、誘引によって樹形を整える。

エ 追 肥

本年は生育が早いので、6月上旬頃に追肥を行う。施肥量は標準施肥量の20%程度とし、成木（11年生以上）10a当たり窒素3kg、リン酸1.2kg、カリ2.4kgを目安とする。

オ 病虫害防除

（ア）薬剤散布（西洋なし）

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
落花30日後頃	ベルコート水和剤 1,000倍 又はデランフロアブル 1,000倍	—	400ℓ
落花40日後頃	オキシラン水和剤 500倍 又はキャプレート水和剤 600倍	ジノテフラン剤 2,000倍	400ℓ
7月上旬	ストロートドライフロアブル 2,000倍 又はナリアWDG 2,000倍 又はベルコート水和剤 1,000倍	ダイジロン水和剤34 1,000倍	450ℓ

注) ジノテフラン剤：スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤

（イ）追加散布（西洋なし）「落花50日後頃」

生育の早い園地では、適正な間隔で薬剤散布を行うために、例年の「落花40日後頃」と「7月上旬」の間に「落花50日後頃」の散布を追加する。なお、薬剤の年間使用回数及び収穫前日数には十分注意する。

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
落花50日後頃 (追加散布)	ベルコート水和剤 1,000倍	スカウトフロアブル 2,000倍	450ℓ
7月上旬	ストロビートライフロアブル 2,000倍 又はナリアWDG 2,000倍	ダイジロン水和剤34 1,000倍	450ℓ

注) ストロビルリン単剤のストロビートライフロアブル及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。

(ウ) 輪紋病対策

6～7月の幼果期は輪紋病に最も感染しやすいので、10日間隔で薬剤散布を行う。なお、散布予定日に降雨が予想される場合には、事前散布する。

(エ) 胴枯病対策

大枝の病患部は見つけ次第、削り取ってトップジンMペースト又はバッチレートを塗布する。小黒点病斑が形成されている枝や枯死した枝は見つけ次第切り取り、適切に処分し、切り口にバッチレートを塗布する。

発生が多い園地では「落花30日後頃」及び「落花40日後頃」にトップジンM水和剤1,500倍も使用する。

(オ) 黒斑病対策 (ゼネラル・レクラーク)

徒長枝は感染しやすいので、不要なものは切り取って処分する。発病果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

「落花40日後頃」はオキシラン水和剤を選択する。

(カ) カメムシ類対策

断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊を見つけ次第、つぶして処分する。ふ化幼虫がみられたら、分散する前に捕殺する。

7月上旬までに発生がみられた場合は、スタークル顆粒水溶剤2,000倍又はアルバリン顆粒水溶剤2,000倍を特別散布する。

(6) うめ・あんず

ア 新梢管理

6月中旬頃までに太枝の背面あるいは先端から伸びた勢力の強い枝は、果実肥大に影響を及ぼすほか、日当たりや風通しを悪くするので取り除く。

イ 支柱入れ、枝吊り

枝葉の繁茂と果実肥大による重さで主枝が次第に下垂するので、枝裂けや樹形の乱れが生じないうちに、支柱を立てるか枝吊りを行う。

ウ 収 穫

(ア) う め

梅漬け用は果面の地色がわずかに抜けて、やや白みを帯びた頃である。梅酒用はこれより2～3日早めのまだ青いうちに収穫する。

(イ) あんず

果梗部の色が薄れて黄色に変わり始めた頃（果実がまだ軟らかくならないうちに）が適期である。また、収穫適期の期間が短いので、適期を逃さず、速やかに収穫を行う。

エ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布

生育が早い園地では、例年の「6月中～下旬」の薬剤散布を「6月上～中旬」に行う。

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
6月中～下旬	イオウフロアブル 500倍	—	350ℓ

(イ) 灰星病対策

あんずでは灰星病が発生しやすいので、収穫前にオーシャイン水和剤3,000倍を特別散布する。

(ウ) 変葉病対策

発病部位は見つけ次第、摘み取って処分する。

(7) 核果類共通（おうとう、もも、うめ、あんず、すもも、ネクタリン）

ア コスカシバ対策

生育期に枝幹部や地際部に樹脂（ヤニ）又は虫糞の発生がみられる場合は、削り取って幼虫を捕殺あるいは刺殺する。もしくは、虫糞を取り除き、ロビンフッドのノズルを孔に差し込み、薬液を噴射する。

《 春の農作業安全運動展開中！（4～5月） 》

農業機械等による事故を防止するため、県では、「春の農作業安全運動」を展開しています。

農作業安全のポイントを意識しながら、「みんなで声かけ！安全確認」を心がけ、安全第一で農作業事故をなくしましょう。

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

○農林水産省「農薬登録情報提供システム」（<https://pesticide.maff.go.jp/>）

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。
詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

次回の「特産果樹生産情報」第4号は6月22日（木）発表の予定です。